保育実習Ⅰ（保育所）における
乳児クラス担当学生の割合と実習内容についての一考察
－実習を終えた学生へのアンケート調査を基に－

馬場住子*・板倉史郎*・本田和隆*

A Study of the Ratio of Students in Charge of Infant Classes and the Content of Practical Training in Childcare Practice I (Nursery School): Based on a Survey of Students Who Have Completed Their Practical Training

Sumiko Baba, Shiro Itakura, Kazutaka Honda

【キーワード】保育実習，保育所，乳児クラス
Childcare Practice, Nursery School, Infant Class

1．研究の背景と目的

保育者養成校（短期大学）における「保育実習Ⅰ（保育所）」は、入学後学生が保育現場において主体的に参加、実践する初めての実習であり[1)]、学生にとって大きなハードルと言える。保育実習を行うにあたっては、乳幼児に関する基本的知識の獲得や乳幼児への保育実践力の育成などが不可欠であるが、それらの能力を育成するためには養成校における保育実習に向けての指導の要である「保育実習指導Ⅰ」の授業だけでなく、さまざまな授業との連携が必要であると考えられる。換言すれば、初等教育等で取り上げれられている合科的関連的な指導が、高等教育においても保育実習指導を行う上で有効ではないかと考えられるのである。

また、近年はコロナウイルス蔓延防止の観点から人と触れ合う機会が大きく制限されており、少子化・核家族化が進む我が国においては、学生自身が入学前および入学後において乳幼児を目にする機会も触れ合う機会も少なくなっているという現状が見受けられる。そのような状況下においても、初めての主体的な実践の場である「保育実習Ⅰ」において、学生が戸惑うことなく乳幼児クラスを担当し、保育実践するためには、「保育実習指導Ⅰ」における指導だけでなく、例えば「乳児保育Ⅰ」などの授業においてもより一層実習を意識した取り組みが必要と言えるであろう。

2017 年の保育士養成課程等検討会では、保育を取り巻く社会情勢の変化、保育所保育指針の改定等を踏まえ、より実践力のある保育士の養成に向けて、保育士養成課程を構成する教科目などについての見直しについて以下のような内容が示されている。保育士養成課程を構成する教科目においては、①乳児保育（※）の充実（※ 3 歳未満児を念頭）→ 基礎的事項の理解を深めるため、演習科目に加え、

所属および連絡先
＊大阪千代田短期大学

講義科目の新設　② 幼児教育の実践力の向上 → 計画と評価や生活と遊びの援助に関する内容の充実 ③「養護」の視点重視 → 養護に関する教科目の内容の再編・充実　④ 子どもの育ちや家庭支援の充実 → 保育の専門性を活かした子ども家庭支援に関する教科目の内容の再編・充実　⑤ 社会的養護や障害児保育の充実 → 今日的な課題を踏まえた、実践的な支援に関する内容の充実　⑥ 保育者としての資質・専門性の向上 → 保育の専門職としてのキャリアパスを見据えた専門性向上の重要性の明示である（厚生労働省 2017）。中でも筆者らが着目するのは乳児保育の充実である。また、各保育士養成施設には、習得すべき内容が過度にならないよう配慮しつつ、教科目全体を体系化し、創意工夫により効果的・効率的な教育の実施を期待するとあり、これらは広義に捉えれば筆者らの提言する合科的関連的な指導をも含むのではないかと考えられる。

先行研究においては「保育実習Ⅰ」において乳児クラスを担当する学生の割合について、また高等教育における合科的授業の在り方について検討した事例は少なかった。そこで本研究では、「保育実習Ⅰ」において、学生がどのような年齢のクラスを担当しているのかを知り、中でも本研究においては特に乳児クラスを担当する学生に着目し、乳児クラスを担当する割合や乳児クラスで行っている保育内容について検証することを目的とする。さらにそれらを踏まえた上で、「保育実習指導Ⅰ」の授業と乳児について学ぶ「乳児保育Ⅰ」の授業を取り上げ、今後どのような指導を共同して行うことが望ましく、「保育実習Ⅰ」に役立つかを考えていきたい[2)]。

2．先行研究における知見

先行研究においては、塩津ら（2017）がＫ大学の実習先へのアンケート調査から、1回生、2回生における実習生の努力を要する点においては、積極性 35.9%、コミュニケーション 15.6%、明朗性 12.5%であり、保育技術においては部分指導などの指導力 21.2%、指導案 19.7%、施設の目的・役割の理解 13.9%であることが分かったとしている。また、小島（2020）は、保育実習ⅠとⅡを行った2回生を対象にアンケート調査を行い、短期大学の保育者養成のカリキュラムは短時間に多くの科目を履修しなければならない現状があり、極めて多忙な中で実施されるといった現状を挙げている。そのことから、保育とは何かという迷いや疑問をもつ学生も多いが、保育の実際を学ぶ実習で保育所の魅力を感じることができればよいとの見解を述べている。

保育実習で学生が子どもとのかかわりでうまくいかなかったことについては、林ら（2017）が1回生の実習後のアンケート調査により、うまくいかなかった子どもとの関わりについては、コミュニケーションの取り方、けんかの仲裁、注意を必要とする場面での対応、遊びの調整、実習生の取り合いになった時の対応、人見知りをする子どもとのかかわり、着替え場面での対応、障がいのある子どもとのかかわり、ママがいいと泣く子どもへのかかわり、子どもの行動の意味を理解すること、子どもに注目してもらうこと、無理な欲求への対応などを挙げている。

保育実習が保育士の質の向上につながることは言うまでもないが、米田（2012）は、学生個々のモチベーションを高め、実習での学びをより効果的にするために、実習事前事後指導の充実が大前提となるとしている。そして、学生がすぐに取り入れやすい実践方法を伝えることと、学生一人ひとりに愛情を

込めて接すること、学生の可能性を引き出すことが教員として大切であるとしている。そして、学生は乳幼児と同じく未知なる可能性、意欲と向上心を秘めているため、学内で学んだ理論を実践・展開する保育実習、保育実習指導を通じて、その内に秘めたる未知なる可能性、意欲と向上心を引き出すことができると述べており、学内教職員間の綿密な連携の下に指導体制の確立が必要であるとしている。

3．本学における「保育実習指導Ⅰ（保育所）」の目的と概要・到達目標・授業計画[3)]

目的と概要	本授業は、保育実習Ⅰ（保育所）に参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び保育所の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。保育所の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。
到達目標	・実習の目的を理解し、実習課題を明確にする ・保育所の制度的理解を深める ・保育所を利用する子どもと家族の生活を理解し、必要とされる保育・子育て支援の概要を学ぶ ・保育士として求められる基礎的な知識、技能の活用方法を学ぶ ・子どもの発達の基礎知識に基づき、保育計画（保育指導案）が作成できる ・実習記録が書ける
授業計画	
第　1　回	オリエンテーション（保育実習とは）
第　2　回	実習目的を基にした実習生カードの指導、記入
第　3　回	実習目的に基づく自己課題の明確化
第　4　回	ソーシャルスキルに関わる演習
第　5　回	実習記録の書き方①目的とねらい
第　6　回	実習記録の書き方②子どもの動きと保育者の動き
第　7　回	保育計画指導案の立て方① ねらいをもった指導案
第　8　回	保育計画指導案の立て方② つけさせたい力
第　9　回	実習先の制度的理解
第　10　回	保育士に必要とされる専門性
第　11　回	実習に関わる演習①―手遊び
第　12　回	実習に関わる演習②―絵本の読み聞かせ
第　13　回	実習直前指導
第　14　回	実習の振り返りによる自己課題の明確化
第　15　回	実習報告会

4．本学における「乳児保育Ⅰ」の目的と概要・到達目標・授業計画[4)]

目的と概要	現代の乳児保育の環境について知り、教育・保育施設にて保育者が日々実践している乳児保育の意義や目的等について学修する。 誕生から著しい発達を遂げる乳児の発達の過程や日々の生活、遊びの現状を知る。また、保育者として必要な知識や保育方法の基本について事例を通して検討することから、子どもにとっての最善の利益についての理解を深める。
到達目標	1. 乳児保育の意義や目的、歴史的変遷について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の心身の発達を踏まえた保育内容について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携、保護者および地域の関係機関との連携について理解する。

授業計画	
第　1　回	オリエンテーション－乳児保育とは－
第　2　回	乳児保育の目的と役割
第　3　回	乳児保育の基本-乳児保育の歴史的変遷-
第　4　回	0・1・2歳児の子どもの発達
第　5　回	乳児（0歳児）の保育内容
第　6　回	1歳以上3歳未満児の保育内容
第　7　回	乳児保育における保育者の専門性
第　8　回	乳児の生活と遊びの基本的事項－乳児の食事、健康や安全、防災対策－
第　9　回	乳児の遊び－各月齢に適した遊びと玩具についてグループで考える－
第　10　回	乳児の保育環境－各年齢にふさわしい環境構成－
第　11　回	乳児保育の全体的な計画－全体的な計画および指導案－
第　12　回	乳児保育における指導計画の実際
第　13　回	乳児保育における子育て支援－保護者支援の実際－
第　14　回	乳児保育における連携－職員・家庭・地域との連携－
第　15　回	総括－乳児保育をめぐる社会的状況と課題－

5．研究方法

（1）調査対象：O短期大学幼児教育科　1回生　保育実習Ⅰ参加学生79名

（2）調査時期：2021年10月

（3）アンケートの質問内容：①担当クラス②担当クラスでの実習内容

（4）倫理的配慮：O短期大学の倫理審査委員会の承認を得た後、調査対象者にはアンケートについての説明を行い、自由意志による回答であることを伝えた。

6．調査結果

（1）実習依頼施設の地域・数（施設）

実習依頼施設の地域は河内長野市、堺市などが多かった（表1参照）。

表1．実習依頼施設の地域・数（施設）[5)]

実習施設の所在地・依頼施設数		
堺市・18	河内長野市・13	富田林市・7
大阪狭山市・7	橋本市・6	岸和田市・5
和歌山市・3	泉佐野市・2	和泉市・2
泉大津市・1	阪南市・1	東大阪市・1
紀の川市・2	泉南市・1	羽曳野市・1
新宮市・1	貝塚市・1	田辺市・1
五條市・1	吉野郡大淀町・1	伊都郡かつらぎ町・1
大阪市東淀川区・1	大阪市平野区・1	大阪市住吉区・1

（2）実習における年齢別担当クラス・担当学生数（名）

実習における年齢別担当クラス・担当学生数（名）は、実習期間中1歳児クラスのみを担当する学生が最も多く、次いで0歳から5歳までの全クラスを（数日ずつ）担当する学生が多かった（表2参照）。

表2．実習における年齢別担当クラス・担当学生数（名）

複数クラスを10〜12日担当		1クラスを10〜12日担当	
0．1．2．3．4．5歳児	11	0歳児	0
1．2．3．4．5歳児	6	1歳児	12
0．1．2．3．5歳児	1	2歳児	8
2．3．4．5歳児	1	3歳児	7
0．1．2歳児	4	4歳児	4
0．1歳児	1	5歳児	7
0．2歳児	2		
0．4歳児	1		
1．3歳児	1		
0．4歳児	2		
1．5歳児	1		
2．3歳児	5		
2．4歳児	3		
3．5歳児	2		

（3）0歳児クラスを担当した学生の主な実習内容と実際に体験した（内容別）学生数（名）

0歳児クラスを担当した学生の主な実習内容では、室内で遊ぶが最も多く、次いで着替え、午睡の援助、おむつ替え、食後の手や口を拭く援助であった（表3参照）。

表3．0歳児クラスを担当した学生の主な実習内容と実際に体験した学生数（名）

0歳児クラス	
内　　容	体験した学生数（名）
おむつを替える	17
調乳（ミルクを作る）	3
ミルクを飲ませる	8
食事（離乳食）の援助をする	10
食事を配膳する	10
食後手や口を拭く	17
室内で遊ぶ	20
園庭で遊ぶ	12
園外に行く	10
着脱の援助をする	18
午睡の援助	18
絵本の読み聞かせ	12
歌・手遊び・ふれあい遊びをする	12
室内整備（消毒など）	15
園庭整備（清掃など）	9

上記以外の内容（自由記述）

0歳児クラス
（おむつ替えを）先生の説明をききながら・（午睡の際に）とんとんする
（おむつを）声を掛けながら優しく替える・（午睡の際に）とんとんする
衣服の着替えをするときにおむつ確認
食事は全員離乳食ではなく幼児と同じものを自分で食べていた・保育者（実習生）は介助スプーンで援助する。
声掛けをしながら（オムツを替える）・砂を食べないように見ておく・チョキチョキダンス・食べてしまうので下にゴミが落ちていないようにする
指定された量のミルクの粉を入れる・抱っこして目を合わせて話しかけながら飲ませる・（室内遊びでは）受容的な関わりを心がけた・大仙公園に行きどんぐりを拾った・（午睡の際に）抱っこしたりトントンする・自由遊びのときにふれあい遊びをしたり、歌を歌ったりした
便の処理の仕方を学ぶ

（４）１歳児クラスを担当した学生の主な実習内容と実際に体験した（内容別）学生数（名）

１歳児クラスを担当した学生の主な実習内容では、室内で遊ぶが最も多く、次いで午睡、着脱の援助、そして、食事、おむつ・パンツを替える、園庭で遊ぶ、室内整備（消毒など）であった（表４参照）。

表４．１歳児クラスを担当した学生の主な実習内容と実際に体験した学生数（名）

１歳児クラス	
内　　容	体験した学生数（名）
おむつ・パンツを替える	32
飲み物を入れる・配る	27
食事を配る	29
食事の援助をする	33
おやつを配る	25
おやつの援助をする	28
室内で遊ぶ	38
園庭で遊ぶ	32
園外に行く	22
着脱の援助をする	35
午睡の援助をする	36
絵本の読み聞かせをする	29
歌・手遊び・ふれあい遊びをする	28
室内整備（消毒など）	31
園庭整備（清掃など）	20

上記以外の内容（自由記述）

１歳児クラス
かけっこ・ブロック遊び・洗濯ばさみ遊び・滑り台・バギーに乗って２歳児の芋ほり見学
ソフトブロックで車を作る・積み木を積み上げる・砂場・固定遊具・子ども用トイレの清掃
ブロック・マグネットブロック・ままごと・絵本・車・公園でおいかけっこ・シッポ取り・自然と触れ合う
ブロック・布同士をボタンで繋げる・エディコチェーン・車のおもちゃ・洗濯ばさみ・手製プラスティックの入れ物・魚の形のフエルト・ボール・砂場・滑り台・三輪車・車

ブロック・絵本・木の玩具・砂場でお山づくり・散歩・どんぐり集め・机やおもちゃの消毒・窓拭き
ピアノの歌に合わせてカエルになりきったりリズム遊びをした・CD を流して体を動かした・砂場で泥を集めてゼリーやプリンを作った・落ち葉・どんぐり集め・散歩・おもちゃの消毒・砂の拭き掃除
絵本・ブロック遊び・ボール遊び・ままごと・砂場遊び・滑り台・近くの公園へ遠足
アレルギーに気を付ける・スプーンの正しい持ち方を教える・挨拶をするまでおやつに触らないよう促す・ブロック・磁石ブロック・ままごと・鉄棒・ホール・滑り台・かけっこ・散歩・落ち葉拾い
積み木・ままごと・ブロック・砂遊び・かけっこ・滑り台・ブランコ・どんぐり拾い
ほとんど室内では自由遊び・食後の机を消毒・散歩・砂遊び・見立て遊び・リズム体操・園外は神社や公園・広場・消防署
車遊び・ブロック・ままごと・絵本・絵パズル・おもちゃの消毒
レゴ・磁石・大きいブロック・木の電車・どんぐり拾い・砂場・散歩・季節の曲を歌う・棚などの消毒
ブロック・ままごと・カラーボール・砂場・ボール・滑り台・乳幼児用のバイク？・小学生のマラソンを観戦
ブロック・ボール・オーガンジー布・砂場遊び・滑り台・散歩
ブロック遊び・砂遊び
手づかみ食べで散らばったご飯をスプーンで集める・（おやつの援助で）声を掛ける・積み木・新聞遊び・自由遊び・砂遊び・滑り台・ごっこ遊び・（着脱の援助で）自分でできるように声を掛け教える・（午睡の際に）とんとんする
ブロック遊び・砂場
ブロック・パズル・積み木・滑り台
ままごと・ボール遊び（室内）・砂遊び・ボール遊び（園庭）
粘土遊び・小屋で動物とふれあう
ままごと・洗濯バサミでタワー・砂遊び
積み木・ブロック・滑り台・砂場
子どもの口に入らないくらいのブロック・ままごと・電車・遊具・砂場・公園にあるシーソーやブランコ
ブロック・絵本・電車・散歩
ブロック・人形遊び・電車・積み木・七五三参りに行った
ブロック・自転車・ぬいぐるみ・河原で花をとったり、バッタを捕まえて遊んでいた
絵本・パズル・シール貼り・車遊び・おままごと・電車遊び・ブロック・砂場遊び・滑り台・おいかけっこ・鉄棒・ボール遊び・全体ではなく個人的に絵本の読み聞かせをした・歌や手遊びは全体ではなく個人や数人だった
ブロック・人形・絵本・走り回る・園の周りを散歩
ブロックなどの玩具で一緒に遊ぶ・砂遊び・滑り台で怪我をしないように見守る・散歩
ブロック・ボール・砂場
ままごとセット・小さな滑り台で遊んでいた（子ども）・散歩・上着を脱がす・寝かしつける
車のおもちゃやままごとなど・滑り台・砂場・机やおもちゃの消毒など
絵本・簡単なサーキット遊び・玩具を使って遊ぶ・砂場・滑り台・固定遊具・散歩・公園で砂場や固定遊具で遊ぶ・絵本を読んだ後ごっこ遊びをする
絵本・滑り台・部屋にあるおもちゃ（キッチン・積み木・シャカシャカ音が鳴るもの）・滑り台・砂場
絵本・ままごと・・砂場・ごっこ遊び・自然とふれあう
便の処理の仕方を学ぶ・ブロック・絵本・マグフォーマーなど・大型遊具・砂場・ボールなど

（５）２歳児クラスを担当した学生の主な実習内容と実際に体験した（内容別）学生数（名）

２歳児クラスを担当した学生の主な実習内容では、着脱の援助が最も多く、次いで室内で遊ぶ、そして、園庭で遊ぶ、午睡の援助、飲み物を入れる・配る、室内整備（消毒など）であった（表５参照）。

表５．２歳児クラスを担当した学生の主な実習内容と実際に体験した学生数（名）

２歳児クラス	
内　　容	体験した学生数（名）
飲み物を入れる・配る	31
食事を配る	28
食事の援助をする	30
歯磨きの援助をする	6
おやつを配る	25
おやつの援助をする	29
室内で遊ぶ	36
園庭で遊ぶ	33
園外に行く	14
着脱の援助をする	38
午睡の援助をする	33
絵本の読み聞かせをする	27
歌・手遊び・ふれあい遊びをする	24
室内整備（消毒など）	30
園庭整備（清掃など）	15

上記以外の内容（自由記述）

２歳児クラス
積み木・ブロック・ままごと・パズル・絵本・スコップで遊ぶ・遊具・フラフープ・三輪車・散歩・公園
レゴブロック・かけっこ・砂遊び
ままごと・ブロック・遊具・ボール・砂場・散歩・整備で窓と壁拭き・掃除機をかける
ブロック・電車・お絵描き・パズル・ままごと・絵本・折り紙・砂場・お店屋さんごっこ・遊具
ブロック・積み木・砂場・どんぐり拾い・滑り台
ブロック・絵本・ままごと・電車・電車のレール・滑り台・タイヤコロコロ・砂場、ミニ自転車・公園で魚のえさやり・広場で遊ぶ・朝に床をホウキで履く
ブロック・ごっこ遊び・ぬいぐるみ・ブランコ・のぼり棒・鉄棒・鬼ごっこ
ブロック・レゴ・積み木・パズル・三輪車・遊具・整備でトイレや部屋の掃除・玩具の消毒
ブロック遊び・絵本を読む・砂遊び
（食事の援助で）声を掛け、野菜を食べたら褒める・ブロック・ままごと・絵本・電車で遊ぶ（線路を繋げる）・砂遊び・遊具・トイレトレーニングを見守り声を掛ける
滑り台
自分で歯磨きをしていた・ままごと・ブロック遊び・魚つりゲーム・三輪車・砂場・かけっこ
ブロックで飛行機を作る・積み木・鬼ごっこ・走り回る・公園に行ってシーソーに乗る
ブロック・ままごと（室内）・電車・砂遊び・ままごと（園庭）
絵本・パズル・積み木・滑り台・砂場

絵本・塗り絵・ブロック
レゴブロック
ブロック・人形・恐竜・ポケモン・電車・近くの公園へ行って遊んだ・絵本「まねっこまねっこ」「クレヨンのくろくん」手遊び「とんとんとんとんアンパンマン」「お話始まるよ」
（飲み物を）欲しいと追加で言った子に入れる・ご飯粒を集める・ブロック遊び・ごっこ遊び・乗車用玩具・砂場・近くの歩道橋・服が畳みやすいように広げる・（午睡の際に）トントンする・絵本「なでてごらん」・むすんでひらいて・椅子を片付ける・机を畳むなど・布団を直す・排泄の援助をする（ズボンやオムツの着脱）・袖をまくるなど手洗いの援助をする
ブロック遊び・プラレール・人形遊び・滑り台・砂場での見立て遊び・（着脱の際に）脱ぎやすくする・（午睡の際に）体をトントンする・椅子や机や床の消毒
ブロック・人形・ぶらんこ・滑り台・砂場
おもちゃ・滑り台・砂場
ブロック・ままごと（室内）・ままごと（園庭）・おいかけっこ・虫探し・おいかけっこ
ままごと・　ブロック・パズル・砂山すべり・砂場・散歩（園周辺の野原）
ブロック・パズル・自転車・リレー
おかわりを配る・ブロック・ままごと・ひも通し・滑り台・三輪車・ボールで遊ぶ（蹴る・投げる・転がす）
ブロック・滑り台・砂場・１人でできない子に対し（着脱の援助をする）・トントンする・園にある絵本・チョキチョキダンス・棚を拭く・園庭では大きな滑り台やボルダリングをした・室内ではブロックなどで馬や車を作った
絵本・ままごと・鬼ごっこ・砂遊び・どんぐり拾い
おかいものごっこ・カプラ・車の玩具
ままごと・ブロック
ブロック・マグネット・絵本・滑り台・砂場・園外の公園・机やおもちゃの消毒・掃除・砂あつめ
絵本・ブロック遊び・玩具・砂場・滑り台・固定遊具・散歩・散歩に出かけ、電車を見ることを楽しむ
絵本・ままごと・ブロック・砂場・遊具・ごっこ遊び
ブロック・絵本・レゴ・マグフォーマーなど・大型遊具・砂場・ボール・三輪車など

（６）0.1 歳の異年齢クラスを担当した学生の主な実習内容と実際に体験した（内容別）学生数（名）

0.1 歳児の異年齢クラスを担当した学生の主な実習内容では、食事や飲み物、おやつの援助、室内遊び、着脱、午睡、絵本の読み聞かせ、園外へ行くであった（表６参照）。

表６．0.1 歳児の異年齢クラスを担当した学生の主な実習内容と実際に体験した学生数（名）

0.1 歳児クラス	
内　　容	体験した学生数（名）
飲み物を入れる・配る	1
食事を配る	1
食事の援助をする	1
歯磨きの援助をする	0
おやつを配る	1
おやつの援助をする	1
室内で遊ぶ	1
園庭で遊ぶ	0
園外に行く	1
着脱の援助をする	1

午睡の援助をする	1
絵本の読み聞かせをする	1
歌・手遊び・ふれあい遊びをする	1
室内整備（消毒など）	1
園庭整備（清掃など）	0

上記以外の内容（自由記述）

0.1 歳児クラス
大仙公園に行きどんぐりを拾ったり遊具で遊んだりした

（７）0.1.2 歳の異年齢クラスを担当した学生の主な実習内容と実際に体験した（内容別）学生数（名）

0.1.2 歳児の異年齢クラスを担当した学生の主な実習内容は、室内で遊ぶであった（表７参照）。

表７．0.1.2 歳児の異年齢クラスを担当した学生の主な実習内容と実際に体験した学生数（名）

0.1.2 歳児クラス	
内　　容	体験した学生数（名）
飲み物を入れる・配る	0
食事を配る	0
食事の援助をする	0
歯磨きの援助をする	0
おやつを配る	0
おやつの援助をする	0
室内で遊ぶ	1
園庭で遊ぶ	0
園外に行く	0
着脱の援助をする	0
午睡の援助をする	0
絵本の読み聞かせをする	0
歌・手遊び・ふれあい遊びをする	0
室内整備（消毒など）	0
園庭整備（清掃など）	0

上記以外の内容（自由記述）

0.1 歳児クラス
ブロック遊び・人形遊び・絵本・延長保育で 2 歳児クラスに集まった

７．考察

実習依頼施設数は 79 施設、施設の地域は 39.2 パーセントが本学のある河内長野市と河内長野市の約 8 倍の人口を持つ政令指定都市である堺市であり、その他は富田林市、橋本市、狭山市、岸和田市等であった。これらは本学が学生に 1 時間以内で通勤できる施設を自身で調べた上で依頼を行っていることから、O 短期大学学生の住所地と重なるためと考えられる。

本研究の目的である実習における担当クラスについては、1クラスを実習全期間通して担当した学生では、1歳児クラスが最も多く、次いで2歳児クラス、そして3歳児と5歳児クラスであった。このことから、保育実習Ⅰでは保育所という施設の特徴として、乳児クラスを担当する学生が幼児クラスを担当する学生よりも多いということが本アンケート調査から明らかになったと言える。

調査から得られたデータを円グラフで示してみると図1.図2.のようになる。

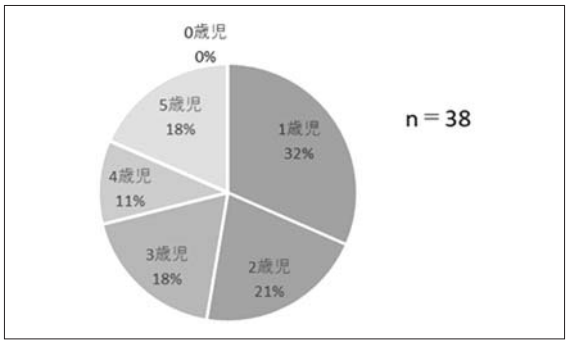

図1．乳児クラス担当の学生の割合（1クラスのみ担当）

図1．を見ると実習生の半数以上が1．2歳児クラスを担当していることが分かる。また、年齢別担当クラスでは1歳児クラス担当が32%と最も多く、次いで2歳児クラス担当が21%と多く、0歳児クラスだけを担当した学生はいなかった。

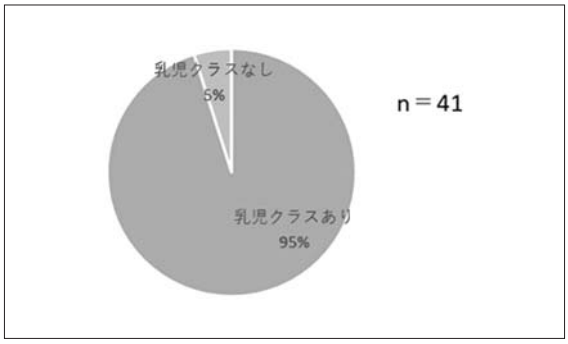

図2．乳児クラス担当の学生の割合（複数クラス担当）

図2．を見ると1日以上乳児クラスを担当した学生が95%であることが分かる。これらのことから、保育実習Ⅰ（保育所）ではほとんどの学生が乳児クラスを担当していることが明らかになった。

乳児クラスの実習内容については、0歳児クラスでは一緒に遊んだり、着替えや午睡、食事の援助が多く、1歳児クラスでも遊んだり、生活面の援助が多岐に渡っている。2歳児クラスでも0歳児・1歳児クラスと同様、生活全般の援助は多岐に渡り、室内・屋外での遊びや食事を配ったり、おやつの援助、室内整備（消毒）も行っていることが分かる。また、乳児クラスにおける保育内容について、本学では講義科目として「乳児保育Ⅰ」で知識としては学修している。しかしながら、実際の現場における実践としてはほとんどの学生にとっては初めての経験であり、現場指導者からの指導に従って一人ひとりが子どもの安全に配慮しながら挑戦しているであろうことが推測される。

さらに、さまざまな授業において、手遊びやふれあい遊び・歌遊び・絵本の読み聞かせなどが取り入れられているが、乳児クラスの実習においては乳児を対象とした遊びの実践が行われていることが分か

る。これらのことから、「乳児保育Ⅰ」では、テキストを使って乳児の発達・成長と保育環境、健康や安全への配慮を学んでいるが、視聴覚教材を使ったふれあい遊びの演習や演習を通した絵本の読み聞かせなどが実習前では大切であり、合わせて記録の書き方の指導も取り入れることが望ましいと考えられる。

次に「保育実習指導Ⅰ（保育所）」の授業において大切にしていること、取り組んできたことについて、実習がうまくいかない学生に対する指導を取り上げ、考えてみたい。これまで実習がうまくいかない学生を指導する中でその理由を聞き取る機会があった。その理由として、主に３つのパターンが見受けられた。それは、①自主性、積極性が見られない（自己認識と食い違う）②実習生としてふさわしい振る舞いができない（態度、提出期限を守る、注意･指導に対する対応）③実習日誌や指導案がうまく作成できない（②と関連するが真面目にやろうとしても学力が問題となる場合が目立つ）である。実習指導では、このような学生を含め、すべての学生が実習に臨む姿勢と具体的な準備ができるように指導することが重要である。そのために①、②については指導の折に触れ、具体的な例を示しながら、必要な対応を伝えてきた。また、個別指導も必要に応じて実施した。③については、「失敗して当たり前」「実習は何ができて何ができないかを知るためにも存在する」「うまくいかなかったことを振り返り、次に活かすことが重要」等を繰り返し伝え、保育への意欲や自信を失くさないように指導してきた。継続した指導を行っても、上記３点の理由で実習がうまくいかないケースはなくならないため、今後も指導内容･方法を探求していくことが課題である。

また、実習がうまくいかなかった学生の自己認識としては、実習日誌がうまく書けないという点が最も多く語られる。指導においては指導案の作成と模擬保育に重点を置いた指導をしてきたが、実習日誌の作成についてもこれまで以上に指導が必要であり、他授業との連携が必要であると思われる。日誌のあり方や記入方法については、実習施設とも意見を交換し、より良いものを追求する必要があろう。具体的な指導における留意点としては「実習日誌の書き方」についてビデオを視聴し、実際に日誌を書くことなどに取り組んできたが、現在の保育実践･研究の流れとして時系列の日誌からいわゆるエピソードを中心に記述する日誌への移行が見られることから、次年度から保育実習Ⅰ（保育所）についてはエピソード記録を基本とし、必要に応じて時系列の記述をできるようにしたいと計画している。

「保育実習Ⅰ（保育所）」における必要な知識や技術について、学生は主に「保育実習指導Ⅰ（保育所）」において指導を受けている。しかしながら、一授業だけですべてを丁寧に指導することは難しいと同時に実習に必要な知識・技能は様々な科目で学ぶことが前提である。その意味でも他授業との連携が今以上に必要になると考えられる。とりわけ乳児については実習記録の書き方も幼児とは大きく異なり、ふれあい遊びや手遊びの内容も幼児向きのものとは適するものが異なってくる。そのため、乳児に関しては「乳児保育Ⅰ」担当者と授業内容を話し合い、互いの授業を高め合い、刺激し合う工夫ができれば望ましいであろう。例えば、日誌の書き方について、幼児クラスについては「実習指導Ⅰ」で指導し、乳児クラスについては「乳児保育Ⅰ」でというように指導を分担し、且つそれらを別々に捉えるのではなく、乳幼児の成長が連続性をもっているように、連続性をもった繋がりある指導であるよう、連携を取ることが期待される。

8．結　　論

入学後、初めての主体的な実習としての「保育実習Ⅰ」において、複数クラスを担当する場合において、一日以上乳児クラスを担当する学生は95パーセントであること、同じクラスを担当する場合においては、1歳児クラス担当が32%と最も多く、2歳児クラス担当が21%と次いで多く、0歳児クラスだけを担当した学生はいなかったことが明らかとなった。また、学生が体験する保育内容は一日の乳幼児の生活の流れ全般に渡ることから、食事（水分補給やおやつを含む）や排泄（おむつ替えやトイレでの排泄の援助を含む)、睡眠（午睡)、着脱、遊び（室内、園庭を含む）など多岐に渡ることが分かった。これらのことから、実習前には養成校において乳児に関する知識だけではなく、乳児を対象としたふれあい遊び・手遊びの演習や絵本の読み聞かせの演習などが必要であると考えられた。加えて、幼児や乳児の保育室の環境や園庭における遊び、年齢別の安全への配慮や援助方法、保育者の役割、子どもへの具体的な接し方についても学修しておくことが必要であり、それらはさまざまな授業を通して学修していくことができるカリキュラムが組まれている中で、それらの授業が連携することが望ましいと考えられた。例えば具体的一例として、記録の書き方については幼児対象の日誌の書き方および指導案の立案と乳児対象の日誌の書き方および指導案の立案指導を連携した授業間でそれぞれ学ぶことができれば、学生にとって望ましいのではないかと考えられた。

今後の課題

今回の研究では、乳児クラスを担当した学生数とその保育内容を取り上げ、授業においては「保育実習指導Ⅰ（保育所)」と「乳児保育Ⅰ」を取り上げたが、今後は幼児クラスについても研究の幅を広げ、その他授業との連携についても検討していきたいと考える。

謝辞

ご多用の中，本調査にご協力いただいた学生の皆さんに心よりお礼申し上げたい。

＜注＞

1）本調査を行ったO短期大学では6月に教育実習が行われるが、5日間の観察実習であるため、本格的な主体的な実習は保育実習Ⅰとなる。

2）本稿では乳児とは児童福祉法により1歳未満を指すが、本研究では保育所における実習を研究対象とすることから、保育所では3歳以上児保育と区別するため0.1.2歳児を乳児保育とすることが多いため、0.1.2歳児を乳児クラスと捉えることとする。

3）「保育実習指導Ⅰ（保育所）」の目的と概要・到達目標・授業計画については 2022 OSAKA CHIYODA JUNIOR COLLEGE 講義要綱を基に作成。

4）「乳児保育Ⅰ」の目的と概要・到達目標・授業計画については 2022 OSAKA CHIYODA JUNIOR COLLEGE 講義要綱を基に作成。

5）実習依頼施設の地域・数（施設）については、大学で作成した実習依頼施設配当表を基に作成。

＜文献・参考研究＞

林幹士、田中麻紀子（2017）「保育実習で学生が子どもとのかかわりでうまくいかなかったことは何か」学校法人夙川学院夙川学院短期大学『夙川学院短期大学教育実践研究紀要 2017』（10）70-80

小島千恵子（2020）「学生は「保育実習」から何を学ぶのか」名古屋短期大学『名古屋短期大学研究紀要』第 58 号 59-68

厚生労働省（2017）保育士養成課程等検討会 「保育士養成課程等の見直しについて（検討の整理）」（概要）（2017 年 12 月 4 日 保育士養成課程等検討会）
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000189068.html2022.7.25.アクセス

塩津恵理子、山口香織（2017）「保育実習指導のあり方を考えるⅠ－実習先（保育所）のアンケート調査から見えてきたもの」神戸親和女子大学『神戸親和女子大学児童教育学研究＝ Studies in Childhood Education』（36），55-64，2017-03-20

米田紀子（2012）「保育実習の意義と展開 －学生の育ちを根底に据えて－」奈良文化女子短期大学『Study reports of Narabunka Women's Junior College』43 167-173，2012-11-01